

# 常総市総合計画審議会会議録

と き 令和4年7月19日（火）  
午後2時30分から

と ころ 常総市役所本庁舎 1階 市民ホール



## 常総市総合計画審議会会議録

令和4年7月19日（火）午後2時30分から第1回常総市総合計画審議会を常総市役所本庁舎1階市民ホールに召集する。

### 会 議 日 程

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 臨時議長の選出について
- 4 議事録署名人の指名について
- 5 議 事
  - 議案第1号 会長の選出について
  - 議案第2号 副会長の選出について
  - 議案第3号 議席の決定について
- 6 諮 問
- 7 説 明
  - じょうそう未来創生プラン（常総市総合計画）策定について
- 8 そ の 他
- 9 閉 会

出席委員	茂田 信三	岡野 一男	草間 典夫	倉持 好一	西田 将人	塚本 治男
	青木 清人	中久喜幸男	小川好市郎	篠崎 孝之	海老原和子	五木田裕一
	坂入 健	長岡 徳樹	小野澤俊雄	近藤 叡淳	川島 宏一	

欠席委員	増田 亮	尾上 孝俊
------	------	-------

事務局	市長公室長	横島 義則	常創戦略課長	小林 弘	常創戦略課長補佐	江面 格志
	未来創生係長	宮川 直也	未来創生係	富山 和弘	松永寛人	

常創戦略課長

それではただいまから第1回、常総市総合計画審議会を開催いたします。本日はお忙しいなか、常総市総合計画審議会に御出席くださりまして、誠にありがとうございます。この審議会は、設置条例第6条で、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことが出来ないとされておりますが、本日の出席委員は19名中17名であり、会議は成立いたしておりますことをご報告いたします。申し遅れましたが本日の進行をいたします常創戦略課の小林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。続きまして、資料の確認をさせていただきたいと思っております。事前に資料を配付させていただいておりますが、こちらの資料から確認をさせていただきたいと思っております。まず1つ目が、A4縦の会議資料と書かれた資料でございます。2つ目が、A4横で左上に別紙資料①と書かれた「じょうそう未来創生プラン後期基本計画について」というものです。3つ目が、A3横で、左上に別紙資料②と書かれた「じょうそう未来創生プラン前期基本計画における施策の現状」という資料でございます。4つ目は、事前資料を今日差し替えさせていただくということで、皆様の机の上に事前に配らせていただいておりますけれども、A3横で別紙資料③と書かれた「じょうそう未来創生プラン施策対照表」ですね、こちらの方を差し替えさせていただきます。事前に机の上にお配りをいたしました、前期基本計画をコピーしましたA4版の冊子です。ちょっと厚めの冊子になるかと思っておりますが、前期版を参考資

料として、コピーを配らせていただいています。最後に、名簿をお配りさせていただきました。若干、名簿の修正がございました。お名前が間違っていた方々につきましてはお詫び申し上げます。名簿の差し替えをお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。なお、この会議は公開を原則としてございます。会議録を作成いたしますので、ご了承をお願いしたいと思います。それでは会議に先立ちまして、神達市長よりご挨拶をよろしく願いいたします。

市 長

改めまして、こんにちは。今日は常総市総合計画審議会ということでお忙しい中お集まりをいただきましてありがとうございます。市の最上位計画でもございますこの総合計画。皆様に大変なご尽力とご協力をいただき、いよいよ前期の5年間で今年度で終了という形になります。いよいよ今日は、後期5年間の内容についてご審議をいただくわけでございますけども、前期の反省、また結果も踏まえてですね、後期にしっかりと生かしていこうということで、庁内で喧々諤々もんでまいりました。この5年間は特に水害からの復興を、そして復興だけでなく防災に取り組む先進都市として、全国に恩返しをするんだという意味で、今日もお越しになっていますが、筑波大学の川島先生をはじめ、多くの皆様にご協力をいただきながら、全国初の防災の取り組みを数々続けてきたところでございます。鬼怒川の堤防も完成をいたしまして、ハード・ソフト面での防災対策が進んでいる状況でもございます。一方、この3年弱、これまで経験したことのない、コロナという疫病との闘いでやるべきことができなかつたところもございます。そういった中でも、行政としてはやれることを粛々と進めてきたところでございます。いよいよ来年度から後期になりますが、道の駅の工事が今年度末で完成し、いよいよオープンします。アフターコロナ、ウィズコロナの時代に都市から地方への人の流れというものも、いよいよ加速をしてまいります。その中で、国では「地方分権一括法」また「まち・ひと・しごと創生」など、様々な取り組みを進めてまいりましたが、今度新たに出てきた政策の中心的なものが「デジタル田園都市構想」でございます。これは、今までどうしても都市部が有利だったものを、地方でもデジタルを生かした形で地方創生をしていこうという取り組みであります。この取り組み

においても、まず常総市としてはA I・デジタルこれを生かしたまちづくりを進めようということで、あの本田技術研究所さんと提携を結ばせていただきました。全国に先駆けたA I・デジタルをまちづくりに生かしてという官民連携の取り組みでございますが、これは決して自動運転だけでなく、A I・デジタルをいかに活用して、農商工の連携や様々な市民サービスの充実を図っていくか、また人口減少に対応できる地方都市をいかに作っていくかというところにも大きな影響力を及ぼします。そういう観点も踏まえ、ぜひ、審議会の皆様には忌憚のないご意見を出していただきながら、常総市の未来をこれから作っていく上でも、総合的な基本計画の作成にご尽力ご協力いただければありがたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

常創戦略課長

ありがとうございました。本審議会は、委員の皆様一新をされております。会議に入ります前に、せっかくの機会でございますので、お一人ずつ自己紹介をお願いできればなと思います。お手数ですが、茂田委員から、時計周りでご紹介をお願いしたいと思います。よろしく願いします。

(各委員一人ずつ自己紹介)

常創戦略課長

なお、本日は農業委員会選出の増田亮委員、学識経験委員であります、身体障害者福祉協議会会長及び常総市公共交通活性化協議会委員であります尾上孝俊委員の2名様から、欠席する旨の連絡をいただいておりますことをご報告させていただきます。それでは次第に従いまして、会議を進めさせていただきます。本来であれば、会長が議長となり議事を進行するところですが、今回は新しい委員さんの初めての会議でありますので、会長が決まりますまで臨時議長を立てて、会議を進めたいと考えております。慣例では年長の委員をお願いをしておりましたが、いかがでしょうか。

(異議なしの声)

常創戦略課長            はい。ありがとうございます。それでは長岡徳樹委員に臨時議長をお願いすることといたします。長岡委員、よろしくお願いいたします。

臨時議長                よろしく願いいたします。それでは皆さん、ご指名でございますので、臨時議長のご指名がありましたので議長の席につかさせてもらってよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

臨時議長                不慣れでございますが、議長の席につかせてもらいます。それでは早速始めたいと思います。ただいま、事務局より指名がございましたので会長が選出されるまでの間、臨時議長を務めさせていただきます。早速会議に入ります。  
次第4「議事録署名人の指名」についてですが、臨時議長において指名してよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

臨時議長                ありがとうございます。それでは、議事録署名人に、海老原和子委員、近藤叡淳委員をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

臨時議長                どうぞよろしくお願いいたします。次に、次第5でございます。議事に入ります。  
議案第1号「会長の選出」について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

事務局よろしく申し上げます

常創戦略課長

会長の選出につきましては、条例で委員の互選となっておりますが、慣例では会長は市議会の代表の委員から選出をされておりました。これを踏まえまして、ご審議をお願いしたいと思います。

臨時議長

ただいま、事務局より説明があり慣例として市議会の代表の議員から選出されたということですが、今回はそういうことでよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

臨時議長

ご異議がないようなので、会長は岡野一男委員と決定させていただきます。よろしく申し上げます。それでは、臨時議長の務めが終わりましたので、会長となりました岡野一男委員と議長を交代させていただきます。ご協力誠にありがとうございました。

会 長

ただいま当審議会の会長にご推挙いただき、また選出をいただきまして、誠にありがとうございます。市議会選出の委員となっております岡野一男と申します。微力ではございますが、当審議会のこれからの運営というものに努力して参りますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。それでは議事に入ります。議案第2号「副会長の選出」について、事務局より説明を願います。

常創戦略課長

副会長の選出につきましては、条例で委員の互選となっており、慣例では、農業委員の代表から選出をされておりました。慣例に従う場合は、本日欠席をされております増田亮委員にお願いすることになりますけれども、事前にご本人にはご了承を得ておりますことをここでご報告させていただきます。以上です。



会 長                    それでは、副会長には、慣例によりまして農業委員の増田亮委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なしの声)

会 長                    異議なしとのことですので、副会長には農業委員の『増田亮委員』にお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(異議なしの声)

会 長                    よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、副会長は増田亮委員に決定いたします。本日欠席ではございますがよろしくお願いしたいと思います。次に、議案第3号「議席の決定」について事務局よりご説明をお願いいたします。

常創戦略課長            議席につきましては慣例ではこれまで名簿順となっております。

(異議なしの声)

会 長                    ありがとうございます。それでは、議席につきましては、名簿順で決定いたします。続いて次第6「諮問」に進めます。事務局の説明をお願いいたします。

常創戦略課長            ここで、市長より常総市総合計画審議会に対しまして、諮問書を提出させていただきたいと思っております。

岡野会長、神達市長、恐れ入りますが前の方へ移っていただきたいと思います。

(市長、諮問書朗読のうえ、岡野会長に諮問書を手渡し)

- 常創戦略課長            ありがとうございます。ただいまの諮問に基づきまして、今後、審議をお願いしたいと思います。ここで、市長は公務の都合により、退席をさせていただきます。
- 会      長                続きまして、次第7「説明」に進めます。じょうそう未来創生プラン常総市総合計画後期基本計画の策定につきまして、概要と素案の内容について事務局の説明をお願いいたします。
- 常創戦略課未来創生係長    (資料に基づき説明)
- 会      長                ただいま事務局から資料に基づきまして、ご説明をいただきました。ただいまの説明に対しまして、ご意見ご質問等がありましたらご発言をいただきたいと思います。なお、発言に当たりましては、挙手を願います。
- 茂田委員                基本的なことを聞きます。資料8のじょうそう未来創生プラン後期基本計画について、後期基本計画の基本方針「デジタルインフラを整備し、官民双方で地方におけるデジタルトランスフォーメーションを積極的に推進する」とある。これは、6月7日の閣議決定を受けてのことだと思うが、デジタルインフラを急速に整備というのはどう整備するのか。また、ほとんど国の施策に沿ってやるっていうことであれば、どこも金太郎飴になる。職員が5年間努力して、デジタルインフラを急速に整備するというが、どういう整備をしてお金はどのくらい使うのか。私が危惧しているのは、こんなに大事なことを決めていくのに3回目に答申では終わらない。そんな会議ならやらないほうがいい。最上位の

答申を1回や2回じゃ終わらない。2月の答申までにもう1回はやらないと終わらないはずである。

会 長

茂田委員から、デジタル国家構想に質問を頂きました。

常創戦略課長補佐

茂田議員の質問につきましてお答えします。閣議決定したことにより岸田政権が力を入れていくものがデジタル田園都市国家戦略でございます。資料8のとおり、市にはまち・ひと・しごと創生総合戦略がありますが、国の方向としましては、これを抜本的に変えていくということです。まずは、国が改訂し、それを勘案して地方自治体も改訂していく予定ですが、まだその具体的なスケジュールが示されておりません。このデジタル田園都市国家構想について、おそらくこの中で一番詳しいであろう、筑波大の川島教授より簡単にご説明していただくことは可能でしょうか。

川島委員

はい。政府が作成したわかりやすい動画があるので、それをちょっとご覧になっていただくのが一番いいかなと思いました。ちょっと、ご覧いただきたいと思えます。

(動画上映)

川島委員

今ご覧になっていただいた政府の動画からわかるとおり、様々なIT技術が進展し、データも流通したことにより、デジタルは交通や医療、教育など幅広い分野での問題に活用されるようになりました。リモートワークもできるようになり、別に都会に行かなくても地方でそのまま仕事ができるという時代でもあります。様々な場所でWi-FiとかIT技術を整備しコワーキングスペースを作る動きも始まっています。常総市にはぜひ、地域の方々と議論して例えばホンダとの取り組みの中で問題解決のアプリケーションを作ったり、あるいは防災先進都市という常総市ならではの特徴を生かしながら計画を作成し、政府の大きなお金の動きを掴んでいただきたいと私は思います。ただ「まち・ひと・

しごと創生」もそうですけど5年10年は続いていくとは思いますが、これ自体がその後また変わってくると思います。科学技術の問題というのは、やはり地域の人間一人ひとりに受けとめられて初めて実際に生きてくるものです。できるだけ人間中心の取り組みといいですか、先ほど茂田委員がおっしゃったように地域の方々に、実際それを受けとめて消化していただき、それを自分ごととして発展させていくことが非常に重要だと思っています。私自身は日頃、データを使ったいろんな問題解決を行っていますが、なぜそれを行っているかというところ、地方自治体は財政的に非常に厳しい状況にあります。また、企業とか組織の経営資源は、通常「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の4つと言われていますが、結局お金がないのでなかなか人も雇えない、物も買えない。その中でも様々な情報を生かすことによって、地域の安全・安心や快適の暮らしなど、まだまだ生み出していけるというふうに思っています。ですから、防災なんか特にそうですけれども、どこに困った人がいるだろうかとか、地域の交通問題ではどこに買い物弱者がいるだろうかとか、そういう情報がまだまだうまく利用されていません。個人のプライバシーの問題もありますが、できるだけ地域の特性を踏まえて今後のまちづくり、この総合計画にもそれらを生かしていくことが、非常に重要だろうと思います。あと外国人の方、ブラジル人の方も非常にたくさんいらっしゃいますので、そういった方々も含めて、どうやって情報を生かして、市役所の持っている情報だけでなく、いろんな企業が持っている情報、地域の方の中にも相当の情報があります。それらをうまく生かして、安全で安心で、なおかつビジネスが起こってそこで人が育っていく仕組みを作る。結局、人が育たないと永続的なにぎわいとか街の成長にはならないので、色々な企業が来てもそれを支える人材がいらない限り発展しない。人間がいて、その人間がまた新たな相手を作っていくような、ポジティブな循環が起こってくるのが重要である。先ほど宮川さんの方から説明をいただきましたけど、いろんな課題がありますが、それら個別にバラバラに考えるのではなく、できるだけ総合的に相乗効果を持ってうまく価値を生み出していくのが重要じゃないかなと思っています。そのためにも情報をうまく利用して、多くの方々に問題を共感していただき、またその方々と一緒になって、取り組むことが大切だと思います。後期の基本計画ですが、この上には基

本構想があつて、そこには「みんなで作るまち常総」とある。みんなで作るのが一番大きなビジョンですので、ぜひそれに向かってこの5年間の後期基本計画があつて欲しいなというふうに思います。

会 長

ありがとうございます。茂田委員の質問の中で、デジタル田園都市国家構想、これを基本計画に反映させていくために、1回、あるいは2回の審議では出来ないのではないかという質問について事務局お答えいただきたいと思います。

茂田委員

あと、インフラの急速な整備っていうのはどのように進めていくのか。

常創戦略課長補佐

茂田議員のご質問ですが、デジタル田園都市構想について、どう進めていくかについては国の方からまだ具体的に示されておりません。今後注視しながら、入れられるものを「じょうそう未来創生プラン後期基本計画」に入れてくような形になると思います。これを残り2回で決めていくというのは、我々もちょっと心もとない部分がありますので、資料にも書かせていただきましたが、場合によってはもう1回増やして審議していきたいと思っております。以上です。

茂田委員

ご苦労様です。6月7日の内閣府の発表を見て感じたこととして、まずマイナンバーが普及していない。このマイナンバーをもとに、医者が何の薬を使ったとか病名とか、全てまとまるようになる。また、一番の目的は株で儲けて利益が20%取られるため、脱税を防ぐことが一番の目的だと思う。韓国とか諸外国に比べて日本はデジタルの後進国であり、今までのツケが急に来たから一気にやろうとしているのではないか。市の職員だって政府の発表なしではできないという。スライドの説明もほとんどデジタルのことである。この名簿を最初穴が開くほど見た。私から3人が市議会議員、あと農業委員会とかいつものメンバーである。工業団体の役員の方とか。おざなりである。デジタルに詳しい方としては、筑波大学の川島先生しかいない。川島先生がいてホッとした。

審議会20人の枠で19人だから、枠をもっとデジタルの専門家を増やしたほうが良いのではないか。もう少しデジタルに力を入れるのであれば専門的な方入れないとだめではないか。私をはじめ、みんな素人である。私はもうすぐ70歳になり、スマホを十何年使っているが、私の年代だとスマホ使えない人も多い。あともう一つ危惧すべきは、動画にもあったが誰も取り残さないことである。そこを盛んに強調していたが、今回のワクチン、私は3回打ったがうちの近所の年配の方は、電話しても2日間通じない。議会で何度も言っていることであり、若い人や私はスマホで予約できるが、出来ない方は1日耳が痛くなるほど受話器を抱えている。そういう方が多くて、まだ3回目も接種できていない。川島先生、デジタルに精通しているのは50歳未満くらいまでですか。

川島委員

そうですね。

茂田委員

そうすると、人生90年の今、50歳以上の人はデジタルが使えない方が多い。さっき言ったデジタルで誰も取り残さない、落ちこぼれをなくすと言うが、50代以上は落ちこぼれている。今から覚えると言ってもできない。これは非常に良いことですから、並行してやるべきである。私は何回も議会で言っても、ワクチンの担当者に言っても全然解決されない。誰もが先にやりたいから、当然パンクする。改善していないため、そういう時でも落ちこぼれが発生している。その人達をまず救わないと駄目である。並行してやらなければ、お題目だけで終わってしまう。50歳以上の人にはデジタルは無理である。議員だってタブレット使えない方も何人かいる。これ以上の方は、馬の耳に念仏であり、並行してまず進めてもらわないと「誰も取り残さない」というのは無理である。川島先生がいて安心した。あとは皆デジタル詳しい人はいないだろう。役所の事務局の方は若いから、何人か詳しい方もいるかもしれないが、川島先生だけです、詳しいの。もし、私は詳しいっていたら手挙げてほしい。デジタルを語れる人をもう少し増やさないといけない。言いたいことは、デジタルに取り残されない人を並行してやらないといけない。以上です。

会 長

ありがとうございます。

一応、要望ということもありますよね。具体的にはできないということでもありますけども、これは基本計画にしていくというもので、私たちもこの内容につきましては早く知りたい。ただ、国の方から指針が出てきていないというのが現状であります。今後は情報を察知していただきまして、我々委員の方にも報告していただきたい。また、川島委員が大変お詳しいということもありますので、その辺のところは、川島委員からも説明をしていただきながら、まとめていきたいというふうに考えています。茂田委員から、委員を増やす提案もありましたが、事務局可能ですか。

事務局

宿題とさせていただきたいと思います。

会 長

審議委員の追加要望というのは、宿題ということにさせていただきます。

茂田委員

それから、もし可能であれば、枠の方は柔軟に20名以上にしても良いのではないかと。1人よりも2人、2人よりも3人の方が良い知恵が出る。

会 長

そのほかにご質問ございますか。

近藤委員

今の茂田委員からのお話で感じたこととして、川島先生がこの委員になられた、委員として選ばれたのは市役所の方の方針としてはやはりこのデジタルを意識してなのか。

会 長

事務局、説明お願いいたします。

常創戦略課未来創生係長

近藤委員のおっしゃる通りでございます。川島委員については、水害の後から常総市の様々な計画策

定とか、事業に携わっていただいております。そうしたこともあり、常総市のことを非常によく知っておられる。そして、先ほどデータを使ったまちづくりをやっておられるというご紹介がありましたが、常総市をよく知っている川島委員だからこそ、デジタル社会において今後常総市はどうしていけば良いか非常によくご理解していらっしゃる方ですので、様々なアドバイスをいただけるという観点から、今回審議委員になっていただいた。

近藤委員

ありがとうございます。そういうことでしたら、茂田委員がおっしゃったように、デジタルの方で増員という話もですが、今この場では川島先生が一番デジタルに携わっている。これまでもいろいろと助けていただいたということであれば、この委員会自体は何回も増やすのが難しいであろうから、策定の段階から川島先生にしっかりと携わっていただいて、他市にも負けないような、プランが立てられると思う。

会 長

はい。貴重なご意見ありがとうございました。その他ございませんか。

草間委員

確認です。デジタルっていう文言、大きくクローズアップされてご説明になっているが、なかなか大変な部分で追いついていけない。内容的なもので、なかなか難しい部分もあるのかなと思いながら、説明を聞いていた。じょうそう未来創生プランと同調させると説明があったが、今回の資料3の施策対照表のところをよく熟読しないといけない。前期の成果的な部分はなかなか評価しづらいような部分もあるかと思う。変更の背景ということで、先ほど柱立てのような形で説明があったが、これが後期のプランを検討していくベースになるという考えでよいのか。

常創戦略課未来創生係長

おっしゃる通りでございます。右側の方の後期の施策及び施策の方向というものが、まさに実際に何を実施していくかという部分になります。事業として何を取り組んでいくか、ベースとなるものであ



る。ここでは、何を実施しますというところまでは触れていない。こういった方向性を後期の計画に掲げたらどうかという叩き台である。これが決まり次第、それぞれ何を事業として実施していくかをこの下にぶら下がるような形で作っていく。

草間委員

ありがとうございます。基本的にはこのところから枝を下して行って詳細に入り込んでいくようなイメージで後期基本計画の検討を重ねていくというところで理解してよろしいですね。

常創戦略課未来創生係長

はい、その通りでございます。

会 長

その他ございましたらお願いします。

倉持委員

今日はこういう機会をいただき、ありがとうございました。多少感想を話してよろしいでしょうか。初めてこのような会議に参加したが、実は2年前、3月19日に常総市では市内の小中学校全てにパソコンを揃えた。今年の春先から、子供たちが一斉に使い始めました。学校によって差はあったが「GIGAスクール」とはこういうことかと感じた。少しずつ理解し始めた中、コロナが蔓延してパソコン1台1台をどう使うかっていくべきかと考えていた。退職したあと、不登校児童の適応指導教室「かしの木スクール」にいたが、2年以上学校に行けていなかったとある中学生の女の子が、学校貸与のパソコンを通じて学校の授業を見られた。数学の授業だった。その子は自分の方を開くのは嫌だけでも向こうからの映像はもらいたいということで数学の授業を受けた。デジタルを使って誰も取り残さないというのは、こういうことかと感じた。学校に行けなくて、不安な子供を解消する手段として、デジタルを使って解消できている。恐らく、デジタル田園都市構想の誰も取り残さないって、デジタルの技術を取り残さないのではなく、デジタルを使って教育・経済などを作っていく、人を取り残さないということだと。後期基本計画の中でこれから5年間どう手だてを作っていくか、良い機

会をこうやっていただいたので目を通し理解していこうと考えている。まとまりませんが、自分の中では少し新しく感じたんでちょっとお話しさせていただきました。みんなで作り上げるっていう方向でいけば、大きいものができるのかなって思いました。感想ですが以上です。

会 長

貴重なご意見ありがとうございました。はい。その他ございましたらお願いしたいと思います。ありませんか。他にないようですので、次に移らせていただきます。次第8「その他」でございます。何かございましたら、お願いしたいと思います。

常創戦略課長補佐

本日は貴重な、審議ありがとうございました。本日、市長から岡野会長の方へお渡ししました諮問書、その控えを委員の皆様にご覧いただきたく思いますので、今から配らせていただきます。合わせまして、もう1枚紙を配らせていただいております。今日限られた時間の中でしたので、本日お示ししました後期基本計画の骨子につきまして、ご意見やご質問を述べられなかった方もいらっしゃるかもしれません。ご意見ご質問がある場合は、事務局であります常創戦略課までお知らせいただければ幸いです。なお、次回の審議会についてのご案内です。次回は、10月下旬もしくは11月上旬を予定していると、冒頭で係の方から説明申し上げましたが、前倒してやらなければならないことも想定しております。計画の素案を作成した後、後日改めて開催通知を用意して日程調整させていただきたいと思います。10月下旬から11月上旬とご説明させていただきましたが、それを前倒ししてなるべく進めたいというふうに思っております。よろしくお願ひしたいと思ひます。また、新型コロナウイルスの感染が再び増えております。本日の開催もどうすべきか、事務局で悩んだ部分があります。今後、感染状況を踏まえまして、場合によっては書面による審議も含めて実施を検討してまいりたいと思ひますので、ご了承いただきたいと思ひます。以上です。

会 長

ありがとうございました。

日程につきましても、ご説明をいただきました。  
場合によっては、前倒しもあろうかと思いますがよろしくお願ひしたいと思ひます。  
その他、ございませぬか。

川島委員

補足させていただきます。デジタルというのは手段です。先ほど倉持委員の方から、不登校対策として上手くデジタルを活用しているという話がありましたが、デジタル田園都市国家構想でも、地域がいかにか独自の問題を他に先駆けて解決しようとしているのかが一番大切です。そのために、防災や交通問題、農業対策、あるいは外国人に関することなど、常総市独特な地域課題があると思ひます。皆さんが困っていることをどう解決したいのかという議論が一番大切だと私は思っている。そのために「データをどう使うか」「何のために」がないとデータというのは全く生かされない。データがそんなにすぐにあるとは思いません。何かをやろうとする時、データを作ろうかとか集めようかっていうことになるので、何が常総市にとってこれから解決すべき問題なのかという事自体の議論が一番大切だと思ひています。

会 長

その辺の議論につきましてもは、これから内容深めましてやっていければなというふうにご考えております。その他ございませぬか。なければ、以上をもちまして本日の協議を終了したいと思ひます。ご協力ありがとうございます。それでは進行を事務局の方にお返ししたいと思ひます。

常創戦略課未来創生係長

お忙しいところ誠にありがとうございました。  
以上をもちまして、本日の審議会を閉会とさせていただきます。次回の審議会を10月下旬から11月上旬頃に予定し、可能であれば前倒しして実施したいと思ひますのでよろしくお願ひします。どうもありがとうございます。

(午後4時15分 会議終了)

上記の議事の正確なることを証するためここに署名する。

令和4年 8 月 3 日

常総市総合計画審議会

会 長 関野一男

署名人 海老原和子

署名人 近藤 聡